

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 りとらびっと		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を中心に行っている。	個別対応をすることで、その子の発達に合わせた必要な経験を1つずつ積み重ねていく関わりをしています。苦手なことや発達の課題と一緒に乗り越えるサポートを意識して関わっています。	「本人が抱える困り感を丁寧にアセスメントし、わかりやすく伝えてもらっている」といったご意見をいただきました。今後もアセスメントをしっかり行い支援していけるよう、スタッフも研修に積極的に参加するなどして様々な視点を身に付けて行こうと考えています。
2	保護者の方からお話を聞く家族支援を定期的の実施している	保護者の方が、お子さまの特性や関わり方について理解を深め、前向きに子育てに取り組めるよう、月に1回ほどの相談時間を設けています。また、今年度からは保護者会を定期的開催し、保護者同士の交流を促すことで、子育ての悩みを共有できる場づくりにも力を入れています。特性や関わり方について一緒に考えることで、療育で得た経験を家庭でも活かせるよう、保護者の方と話し合いながら支援を進めています。	「子どもだけでなく、子育てする親に対しても、共感的にしてもらっており、心の安定につながっている。」といったご意見をいただいております。保護者の方に寄り添いながら支援ができるよう、スタッフも研修に出るなどして、傾聴の方法や発達特性についての知識を学んでいくことで、保護者の方が安心できるよう家族支援を行いたいと考えています。
3	心理士が定期的に関わっている、系列の札幌こころの診療所と密な連携を行うなど、専門的な視点で支援を行っている。	遊びを通して、行動観察を行いながら1人ひとりの発達特性を理解し、発達支援を行っています。様々な職種のスタッフが在籍しているため、多角的な視点でアセスメントを行っています。また、同じフロアに札幌こころの診療所が併設しているため必要に応じて診療所スタッフとも連携を行っています。	事業所内でのケースカンファレンスの充実化を考えています。また、診療所スタッフと連携を取る時間を設け、安定した連携を図れるように検討していきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎がなく、保護者の方に毎回連れてきていただく必要があること	送迎がないことで保護者の方の負担はあると思います。しかし、一緒に通所していただくことで、保護者の方との相談時間を設けやすい、一緒に入室していただき療育の様子を実際に見ながらお話をするなど、保護者の方と一緒にお子さんについて考える時間を取りやすい環境であると考えています。	送迎については、現在の所、実施の予定はありませんが長期的に検討事項としては認識しています。保護者の方と一緒に通所していただくことで、よりよい支援や安心して通所していただけるような工夫を今後も検討していきたいと考えています。
2	非常時の対応に関する周知	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアルなど、職員へ周知徹底、訓練の実施をおこなっていますが、保護者の方への周知方法や掲示の仕方を工夫する必要があると感じます。	非常時の対応や訓練等の計画について、分かりやすい保護者向けの資料を作成し配布や掲示をして参ります。また年に2回ビル全体で行っている避難訓練の様子なども掲示しながら周知していきたいと考えています。
3	情報の周知不足	ホームページの存在が、利用児の保護者の皆さまに十分に周知されていないことが課題だと感じています。支援プログラムの内容や利用に関するお知らせなど、必要な情報を掲載していますが、実際にはご覧になっていない保護者の方が多いように思われます。	月に数回の活動報告を掲載するなど、ホームページでの情報発信を今後は定期的に行っていく予定です。継続的に更新することで、保護者の皆さまにもホームページの存在が自然と定着していくよう取り組んでいきたいと考えています。